

Title	小鳥のシロハラ(ツグミ科)の京都大学瀬戸臨海実験所構内の窓ガラスへの衝突
Author(s)	久保田, 信
Citation	くろしお (2014), 33: 25-26
Issue Date	2014-10
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/191076">http://hdl.handle.net/2433/191076</a>
Right	© 南紀生物同好会
Type	Article
Textversion	publisher

## 小鳥のシロハラ（ツグミ科）の京都大学瀬戸臨海実験所構内の窓ガラスへの衝突

Shin KUBOTA : Collision of a small bird *Turdus pallidus* (Turdidae) on the window glass in the campus of the Seto Marine Biological Laboratory, Kyoto University

久保田 信

和歌山県西牟婁郡白浜町に位置する京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所研究棟で、これまで何度か小鳥の衝突に遭遇した。最初は1996年のことで、2階にある久保田研究室の入口横の透明な窓ガラスに未成鳥のクロツグミ *Turdus cardis* TEMMINCKが激突して即死した（久保田, 1997）。それから17年後、衝突死こそなかったが、2013年にはスズメ *Passer montanus* LINNAEUSが1階の実習室の窓ガラスに当たって落下した（山守・久保田, 2013）。今回、もう一件の小鳥の窓ガラス衝突を記録する。

### 2012年のバードストライク

瀬戸臨海実験所研究棟1階の1個の左右に開く細長い窓が付いた男子トイレで、2012年12月29日の早朝7時30分頃、大きな音を立てて小鳥が衝突した。その窓の下端部は地面から高さが170cmあり、大きさは縦70cm、横が左右併せて300cmの透明ガラスであった。そのガラスの内側にはマジックフィルムが張られ、昼間は外からは中が見えないようになっている。小鳥衝突時は薄暗い時間帯だったが、窓ガラスには周囲の景色が映っていた（図1）。

衝突音を聞き、その窓をすぐ開いて外を覗くと、小鳥が一羽地面に落ちており、片羽を伸ばした状態でうずくまっていた。その数分後に小鳥は片羽を元に戻した（図2）。この状態でその鳥を両手ですぐつかめたので、小型の段ボール箱に収容し保護した。

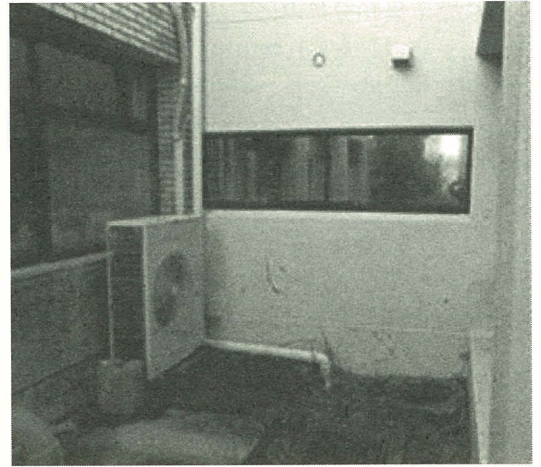


図1 小鳥の衝突があった京都大学瀬戸臨海実験所研究棟1階の男子トイレの窓ガラス（景色が映っている）



図2 京都大学瀬戸臨海実験所研究棟トイレの窓ガラスに衝突し落下したシロハラ *Turdus pallidus*

この小鳥はシロハラ *Turdus pallidus* で、ヒヨドリより少し小さい。シロハラは極東のウスリ・アムール川流域、中国東北部、朝鮮半島などで繁殖後、冬鳥として我が国の主に本州中部以南に渡来することが知られている旅鳥である(上野, 1997)。今回の事例は、マジックフィルム張りの窓ガラスに映った景色を実在物と勘違いした衝突だと推察される。

衝突落下後10分以内にそのシロハラは元気を回復し、収容した入れ物の中で暴れ始めた。そこで研究棟2階の窓際でその箱を開くと、小鳥は自力ですぐに外へ飛び出し、少し飛翔して樹木にとまった。回復して元の状態に戻れたものと推察される。このような衝突(バードストライク)に当実験所内でタイムリーに遭遇する確率は低いであろうが、それほど頻繁には生じていないようである。

#### 引用文献

- 久保田 信. 1997: 和歌山県白浜町で事故死したクロツグミ. 南紀生物, **39**(1), 28.
- 上野吉雄. 1997: シロハラ. PP. 103, 108. *in* 日本動物大百科 第4巻 鳥類II, 平凡社, 東京.
- 山守瑠奈・久保田 信. 2013: 京都大学瀬戸臨海実験所構内でスズメ(スズメ科)の窓ガラスへの衝突. くろしお, (32), 27.

(〒649-2211 西牟婁郡白浜町459)

京都大学フィールド科学教育研究センター  
瀬戸臨海実験所